

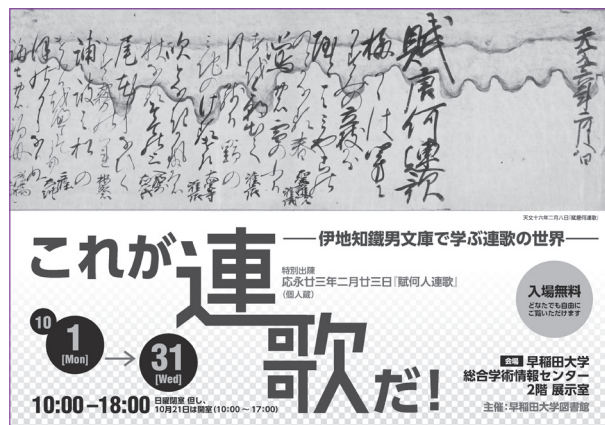
2018年度図書館主催展覧会報告

1

これが連歌だ！ —伊地知鐵男文庫で学ぶ連歌の世界—

会 期:2018年10月1日(月)～2018年10月31日(水)

会 場:総合学術情報センター 2階展示室



連歌研究に大きな足跡を残された故伊地知鐵男先生(1908-1998)は、宮内省図書寮(現・宮内庁書陵部)で長く古文書の調査・研究にあたられ、ご退官の後、本学の文学部で教鞭をとられた。先生のご厚意によって館蔵に帰したその旧蔵資料の一部は、「伊地知鐵男文庫(文庫20)」として、当館のコレクションの中でも質の高さを誇っている。しかし、残念ながら、これまでその資料群をまとまった形で公開する機会には恵まれなかった。2018年が先生の没後20年に当たることから、今回、先生が蒐集された資料を中心とする展覧会を企画した。奇しくも、2017年末に『連歌大観』全3巻の刊行が完結し、学界に新しい風が吹き始めようとしている連歌は、しかし、一般にはなじみの薄い文芸ではある。そこで、本展では、連歌懐紙の使い方から連歌会席のしきたり、主な式目の解説や実作品の鑑賞・解説に、連歌史概観という構成で、学部学生にも連歌を理解してもらえるように工夫した。「実際の資料を用いて連歌を解説できるとは、さすがに早稲田大学図書館だ」、「伊地知先生の眼識のほどを再認識でき



2

第二次『早稲田文学』を飾った挿画たち —本間久雄旧蔵資料から—

会 期:2019年3月22日(金)～2019年4月25日(木)

会 場:総合学術情報センター 2階展示室



中央図書館では、故本間久雄名誉教授(1886-1981)が収集された資料のうち、近代文学関係資料を「本間久雄文庫(文庫14)」として収蔵している。近代文学者や作家の書簡や書幅、自筆原稿など762点、図書1,514冊に及ぶコレクションは、近代文学資料の宝庫として知られる。このたび、本間先生の令孫お二方のご厚意により、本間先生が編集・発行に携わった第二次『早稲田文学』の挿絵・



表紙原画を中心とする、先生所縁の資料をご寄贈いただいた。今後、「本間久雄文庫」に加える形で整理する所存である。

今回の展示では、これら原画を本間旧蔵時の表装そのままに、掲載号原本と共に展示した。森田恒友、岸田劉生、小川芋銭、吉川霊華といった錚々たる画家たちの挿画、表紙絵原画は、小品ながら趣深く、表具の裂地まで自ら選定したこだわりの表装により、統一感のある展示となった。

会期中、今回の資料をご寄贈くださった令孫のお二方も展示室に足をお運びくださり、喜んでいただけたのも幸いであった。

なお、このほか、図書館がかかわったものとしては以下の展示が開催された。

スロヴァキアの傑出した外交官M・R・シチェファーニク／ M・R・シチェファーニクの日本滞在

会 期:2018年11月27日(火)～2018年12月1日(土)

会 場:総合学術情報センター 2階展示室

主 催:早稲田大学ロシア研究所

後 援:駐日スロヴァキア共和国大使館

協 力:早稲田大学図書館

スロヴァキアの外交官・軍人であり、チェコスロヴァキア独立運動の中心的人物であったミラン・ラスチスラウ・シチェファーニク(1880-1919)の生涯と、彼の日本滞在中の活動を、パネル、年表、写真や各種記録で紹介するものであった。

展示初日にはオープニングセレモニーが行われ、駐日スロヴァキア共和国大使も来訪された。

